掲載日:2005年09月12日，面名:AE0101，記事ID:N20050912AE0101010
(C)新潟日報社

県内小選挙区

民主踏ん張る

激戦、筒井さん4選

十一日開票の衆院選では全国的に自民大勝の流れとなったが、本県では民主前職の菊田真紀子さんが4区、筒井信隆さんが6区の議席を守り、踏ん張りを見せた。自民前職は3区の稲葉大和さんが圧勝、2区の近藤基彦さんは底力を発揮した。また鷲尾英一郎さん（2区・民主新）、高鳥修一さん（6区・自民新）らが、比例代表で次々と復活当選。激戦新潟の陣を飾った。

6区

「皆さんの心臓を悪くさせたかもしれない。絶大な声援をいただき、厳しい戦いを勝たせていただきましたッ」。接戦を制し四選を果たした筒井信隆さん（民主前）。テレビの「当確」が十一日午後十一時半すぎに出されると、上越市の上越商工会議所で拳を突き上げ、声を張り上げた。

花束を受け取った筒井さんは「6区を、田舎の暮らしを守ります。支援は、明日からの仕事で必ずお返しします」と満面の笑み。約二百人の拍手と歓声が鳴り響いた。

高鳥修一さん（自民新）の陣営、支持者は選挙区で敗戦が決まると「あー、駄目か」とうなだれた。しかし、十二日午前零時十五分、比例代表復活当選の報が入ると、事務所内は歓喜が爆発。花束を受け取った高鳥さんは「生きた心地がしなかった。必ずお役に立ちます」と力強く誓った。

万歳する筒井信隆さん＝11日午後11時40分ごろ、上越市新光町1の上越商工会議所

3区の盟主の座をがっちり守った稲葉さん＝11日午後8時すぎ、村上市山居町2の事務所

花束を贈られる菊田真紀子さん＝11日午後10時40分ごろ、三条市荒町2の選挙事務所

3区

稲葉さん早々乾杯

「盤石の五選だ」。村上市山居町二の稲葉大和さん（自民前）の事務所に「当確」の報がテレビで流れたのは、十一日午後八時すぎ。岩船などの開票が始まってすぐで、大きな拍手に包まれた。

間もなく姿を現した稲葉さんは「なぜこんなに早く…キツネにつままれたよう」と笑顔を浮かべながら「小泉さんと自民党に今後の日本のかじ取りを任せるという審判が下った。郵政も大事だが景気回復も大切。地方の声を中央に届けたい」と表情を引き締めた。

「もう当確が出たの？」などと苦笑いを浮かべる支持者もいるほどのスピード当確だった。

支持者とともに万歳をする近藤基彦さん＝11日午後11時15分、巻町巻甲の事務所

4区

菊田さん逃げ切る

栗原さん追い上げ通じず

「よし、やった！」。十一日午後十時四十分ごろに「当確」が報じられると、三条市荒町二の菊田真紀子さん（民主前）の事務所では、詰め掛けた約八十人の支持者から一斉に拍手と歓声がわき起こった。

初当選の原動力となった前回と同じ民主、社民両党の共闘で栗原陣営の終盤の追い上げを振り切った。再選を決めた菊田さんは、紙吹雪の中をガッツポーズで進み、「皆さんのお陰で逆風の中でも議席を守ることができた。災害被災地の皆さんから希望を持ってもらえるよう、公約の実現にまい進してまいりたい」と、国政への決意を新たにしていた。

栗原洋志さん（自民新）は同日午後十一時、新潟市（新津）の花き総合センターで、支持者約百二十人を前に「精いっぱいやったので悔いはない。今回は負けたが、必ずや皆さんの声を国政に反映させたい」と頭を下げた。父博久さんは肩を落とし、言葉少なだった。

万歳する鷲尾英一郎さん＝12日午前0時30分すぎ、燕市白山町の事務所

2区

鷲尾さん復活で歓喜

6区

高鳥さん

酒だるを抜く高鳥修一さん＝12日午前0時30分すぎ、上越市木田2の事務所

2区

「つらかった」近藤さん神妙

「やった。よかった」―。十一日午後十一時すぎ、近藤基彦さん（自民前）の「当確」がようやく出た。巻町巻甲の事務所でじりじりしながら待っていた百人余りの支持者からは、歓声とともに安堵のため息が漏れた。近藤さんは「これほどつらかった選挙はない。再びバッジをいただいたので全力で頑張りたい」と神妙な表情で語った。

自民公認で戦った二度目の選挙。しかし、郵政民営化関連法案の衆院採決で棄権したため、公認決定は三次にずれ込んだ。自民への追い風にもかかわらず、終盤から二十歳以上若い民主・鷲尾英一郎さんに都市部などで猛追された。

「やったー」。小選挙区の敗北で一度は沈んだ鷲尾英一郎さん（民主新）。十二日午前零時すぎ、燕市白山町の事務所は比例代表での復活当選の報を受け、歓声で沸いた。鷲尾さんは満面の笑みで支持者と握手を交わし、「十万票もの支持は本当にありがたい。二十八歳という若さを生かし、精いっぱい頑張ります」と力強く語った。